

蘭越町営チセヌプリスキー場譲渡先決定

12月にも再開 地元安堵

年間5000人集客見込む

地域活性化に期待

【蘭越】2013年末から営業を休止している町営チセヌプリスキー場が28日、ニセコ町のスキーガイド会社に譲渡され、12月にも再開される見通しとなり、観光関係者は胸をなで下ろしている。倶知安、ニセコ両町と構成する「ニセコ観光圏」の3町では唯一、営業中のスキー場がなかったこともあり、ニセコの観光客のさらなる増加に期待がかかる。

(堀田昭一)



民営化されるチセヌプリスキー場。ニセコ観光圏全体のさらなる活性化に期待がかかる

蘭越町の山内敷総務課長は契約後、「正直ほっとしている」と話した。施設老朽化などで営業休止後、町が14年12月から2回譲渡先を公募。東京の人材派遣会社といったん合意したが話が壊れるなど曲折があり、譲渡金額を下げた3回目の公募で契約がまとまった。譲渡先のJRTトレディングは、圧雪車やヘリコプターでスキー客を案内するガイド事業のほか、ニセコ町で宿泊施設「ブラックダイヤモンドロッジ」を経営している。

事業計画では、5年後にも現在のリフトを更新、新リフト完成まではキャットスキー（圧雪車で登るスキー）で集客を図るとする。また、スキー場そばの町営温泉「雪杖父」と連携したツアーを企画。全体で年間約5千人の集客を見込む。

町によると、公募には倶知安などの6社から応募があったが、JRTが鳥牧村でバックカントリースキーを運営している経験を重視

した。町議から懸念が出た安全管理については近くJRTと町、山林を所有する道の3者で覚書を交わす。

ニセコ観光圏の全8スキー場のうち、チセヌプリスキー場とともに休業中のワイズスキー場（倶知安）も、14年にニセコHANAZONOリゾート（同）を運営する日本ハートモーターリゾートが買収し、再開を目指している。

ニセコリゾート観光協会は「スキー場が増えればニセコ全体の魅力が高まる」と歓迎。チセヌプリから車で15分ほどの「新見温泉」（蘭越町新見）を来年1月にも新装開業するクールスタ（札幌）は「スキー客が近くの温泉にも流れてくれる」と期待している。

蘭越町がスキー場譲渡

チセヌプリ 12月にも再開

【蘭越】後志管内蘭越町は28日、2013年末から営業を休止している町営チセヌプリスキー場をスキーガイド会社、JRTトレディング（同管内ニセコ町）に譲渡する契約を結んだ。営業権などの譲渡額は1千万円。同社は、12月にも営業を再開する方針だ。

同スキー場はチセヌプリ（1340）の道有林内に全長1700mのリフト1基、グレンディコースのみという小規模なスキー場だが、原生林に囲まれた中

で滑走でき、愛好家から根強い人気がある。JRTは同管内鳥牧村で雪上車を使って登るキャットスキーという事業を展開している。カナハン・クレイトン社長は「最高の雪質で温泉も近い」と話し、主な顧客層をニセコ地域に長期滞在する国内外の富裕層とする考えを示した。当面はリフトを稼働させず、キャットスキーのみで営業する予定だ。5年後にも老朽化したリフトを更新する計画という。

同スキー場は1967年開業。施設の老朽化などで休業中だった。町は14年12月、15年4月、譲渡価格5千万円で移譲先を公募。東京の人材派遣会社に決まりかけたが最終的な契約には至らず、今年3～4月に譲渡額を1千万円にまで引き下げ、再公募していた。

全道版